

# 和尚さんの心に浮かぶこと

令和編



## 目次

|                            |    |
|----------------------------|----|
| 礼儀正しく歩く（令和元年5月1日）          | 5  |
| みねの里（令和元年5月16日）            | 6  |
| みねの里・長泉堂の利用について（令和元年6月5日）  | 7  |
| こどもはみんな仏の子（令和元年7月6日）       | 10 |
| つく「づ」く法師（令和元年7月24日）        | 16 |
| もうすぐ秋のお彼岸です（令和元年9月11日）     | 16 |
| 三世仏（令和元年9月27日）             | 17 |
| 立冬（令和元年11月8日）              | 19 |
| 年末（令和元年12月8日）              | 20 |
| クリスマスの日（令和元年12月25日）        | 21 |
| 新年のご挨拶（令和2年1月1日）           | 22 |
| 30年前の卒業式（令和2年2月4日）         | 23 |
| 一斉休校（令和2年3月4日）             | 24 |
| 自利利他（令和2年4月3日）             | 25 |
| 忘己利他（令和2年4月16日）            | 27 |
| 未確認飛行物体（令和2年6月21日）         | 28 |
| もうすぐお盆（亡者のたわむれ）（令和2年7月22日） | 30 |
| 立秋もお盆も過ぎて（令和2年8月19日）       | 31 |
| 年の瀬に（令和2年12月24日）           | 32 |
| 火の用心（令和3年1月7日）             | 34 |
| 雨水の日におもうこと（令和3年2月18日）      | 35 |
| 鐘撞き再開（令和3年4月15日）           | 37 |
| 2回目の東京オリンピック（令和3年7月22日）    | 38 |
| もうすぐ秋の彼岸です（令和3年9月8日）       | 39 |
| 中秋の名月（令和3年9月21日）           | 40 |
| 石川昭光公と臥牛門（令和3年12月30日）      | 41 |

|                 |              |    |
|-----------------|--------------|----|
| 寅年              | (令和4年1月12日)  | 44 |
| よのなかごこち         | (令和4年2月11日)  | 46 |
| 復興にむけて          | (令和4年5月20日)  | 47 |
| 6月14日に思う        | (令和4年6月10日)  | 49 |
| 億劫              | (令和4年10月28日) | 50 |
| あけましておめでとうございます | (令和5年1月1日)   | 51 |
| 鐘撞き堂            | (令和5年3月1日)   | 52 |
| 読書の秋            | (令和5年10月18日) | 53 |
| 子ども食堂に思う        | (令和5年12月29日) | 55 |
| 日は好日            | (令和6年2月14日)  | 56 |

礼儀正しく歩く（令和元年5月1日）



今日は5月1日。いよいよ元号が「令和」と改元され、新しい天皇陛下が即位されました。テレビで拝見いたしました。

すと、まるで都会ではお正月がきたようなお祝いの姿が見られ喜ばしいことだと私も感じております。

さて、私ども僧侶が修行する修行道場、即ち僧堂では、4月15日より安居と言って、90日間、修行僧には山門から外へ出ることが許されず、坐禅に専念する3ヶ月の修行生活に入ります。

この時期はインドの昔より梅雨の時期に入りますので外に修行に出かけることが出来ません。したがって七堂伽藍にこもり坐禅修行に専念するわけです。私はいきたいこの時期に合わせて冬物の大衣、すなわち羽二重の大衣から紹の大衣に衣替えをすることにしています。

お洒落は足元からと言うことで、先日、足袋の整理をしてみました。足袋というのはなかなかよく出来ている言葉で、足の袋と書きます。誰が作った言葉かは知りませんがさすがと思う言葉です。それに引きかえ

靴下というのははいて靴の中に収める物なのに靴の下と書きます。どういうことで靴下となったのでしょうか？NHKの「チコちゃんに叱られる」にでも相談してみたいところですが逆にチコちゃんに叱られるかな？おっと、話がそれました。

で、足袋の整理をしてみても私は驚きました。足袋には右左あるわけですが、私の場合、右足の足袋が多く痛むのを知りました。私には歩く時に右脚を少し引きずって歩く自覚がありますが、そんな理由で右脚の足袋の痛むのが早いのだろうかといぶかしく思ってみました。

とにかく足袋の底を縫い付けてあるところからぞじています。外からは目立たないので勿体ない気もしましたが、痛んだ足袋を廃棄することにしました。すると、何と左足の足袋が五足残ってしまいました。片方だけ残しても仕様がないのでこれも処分しました。十七組の足袋が結局十二組になりました。

ご本堂でお経をあげる時、私の歩く格好をよくご覧になっていただくと、私のはちょっと右足を引きずるような歩き方に気づかれるかも知れません。いつごろからなぜこうなったのか自分でも分かりません。また靴も右足の方から早くそじるような感じが

します。坐禅の姿勢ばかりでなく歩く時の姿勢もちゃんとせねばと努めているのですが、友人からは「しゃきつと歩け」などと気合を入れられま  
す。意識して歩いているのですがね・・・。

膝を痛めたり脚が痛むのも大体右脚の方から痛  
んできます。

ある方に誘われて岩手県の夏油温泉というところに行きました。おそろしく狭い山道を上がり、山の谷間で湯治をしました。たった一泊の湯治でしたが、何と60度近い熱湯の温泉につかりました。なかなか最初は入れませんでした、ベテランの湯治客の方から湯の表面の静かなポイントにめがけて沈むと入れると教わり、半日かけて夕方、漸く入ることができました。上がると体全身が真っ赤。もう火傷したように苦しかったです、冷めてはガマンしてまた入る、上がってはアチチと悲鳴をあげると2〜3回繰り返し入ることが出来ました。

夏油温泉を下り、1ヶ月もしないうちに血管から何か詰まったものが流れ落ちた感じになり非常に体調がよくなりました。けれども長年のクセで

歩き方は直りません。

ですから、元号は新しく改まりましたが、右足袋のそじる数が減るにはまだまだまだ時間がかかりそうです。

上皇陛下、天皇陛下は勿論、宮内庁職員の方々の歩き方を拝見して感銘を深くした次第です。

### みねの里(令和元年5月16日)

今日は5月16日。昨日は心配された雨もあがり、昨年から建設を進めていました「多目的ホールみねの里『長泉堂』」の落成開堂法要をとりおこなわせていただきました。

総代長鈴木俊輔様をはじめ常任役員の方々、鵜工舎・小川三夫棟梁、(有)阿部工営社、他工事関係者の皆さまに多数お集まり頂き滞りなく相済ませることが出来まし



た。また、法要に先立ち尺八による慶祝吹奏を太田雅邦（邦夫）様に虚無僧姿で独奏をして頂きました。この場をかりて御礼申し上げます。

今回の式典の中で私が一番嬉しかったのは、ミ



ネ幼稚園の園児たちによる「ののさまのうた」や「ミネ幼稚園園歌」そして「おちかい」のことはをみんな心をこめて明るく元気に演じてくれたことです。「みねの里『長泉堂』」の開堂にふさわしく、臨席されていた方々も子どもたちの声に仏のこころを感じたのではないかと思えます。

子どもたちの成長と同じように「みねの里『長泉堂』」も檀信徒の皆様のご利用を頂きながらとともに成長していくことを願っています。



※子ども食堂も始まります。（6月1日より）



### みねの里・長泉堂の利用について（令和元年6月5日）

昨年秋より建設を進めてまいりました長泉寺「多目的ホールみねの里『長泉堂』」がまもなくオープンいたします。現在は東より本堂に向かって山門右側に駅前大沼

線の大通りからまっすぐ車で「みねの里」まで入ることが  
ができる橋と駐車場の整備を進めております。

橋と駐車場の整備が完成する7月1日には正式に  
オープン出来るだろうと考えております。それに先立  
ち、皆様からどのように利用できるかという問い合わせ  
が多く寄せられておりますので、その事についてお  
話をさせていただきます。

まず最初にこの多目的ホール「みねの里『長泉  
堂』」はお檀家の皆様、またこれから長泉寺のお仲間  
に入っていただけ newer しいお檀家様方のみがご利用で  
きるホールです。従いましてその他の方々、一般の  
方々のご利用はご遠慮いただきたく思います。葬  
儀、法要各種行事あるいはごども食堂など、皆様方に  
広く活用していただきたいと思っております。

ご不幸が起きて、この「みねの里『長泉堂』」を利  
用してご葬儀をされたいご希望の方々を対象にお話し  
をいたします。

どこの葬儀社（葬祭会館）の会員になられている  
方々どなたでもご利用できます。もちろんお檀家の皆  
様方がある意味で長泉寺の会員様ですので改めて長泉  
寺の会員になる必要はありません

万が一の事が起きましたら「みねの里『長泉堂』」  
で葬儀を行いたい。その旨でお手伝いをお願いします  
と会員になられている葬儀社さんに一番最初にお話を  
して下さい。次に長泉寺に電話でのご連絡をお願いし  
ます。

そしてその葬儀社さんをご利用されてご遺体を「み  
ねの里『長泉堂』」へ、あるいはご自宅へ、あるいは  
また一時的に葬儀社（葬祭会館）にご遺体をご安置く  
ださい。その後の予定については、あらためて長泉寺  
とご相談をお願いします。

「みねの里」でのご遺体安置につきましては一泊あ  
るいは2泊、3泊、それ以上でも何日でもお預かりを  
するのは一律2万円です。通夜それから葬儀後の法  
要、会食でご利用されたい場合は3万円を使用謝礼と  
してお願いしております。もちろん当日葬儀のみの場  
合、あるいは当日法要のみの場合は0円です。皆様方  
のお寺ですから頂きません。会食をされる場合は1万  
円の謝礼をお願いします。またはその他の活動として  
ご利用されたい場合は午前9時から午後4時まで、一  
日のご利用と考えてどんなご利用でも五千円の謝礼を  
お願いします。

さて長泉寺の「みねの里『長泉堂』」でのご葬儀をさ

れる場合は一般の葬儀社さんが行っております。ビデオスライドあるいは音楽等の演出等はご遠慮いただいております。多数の僧侶による懇ろな読経により厳かなご葬儀をさせていただきたいと思っております。お祀りしているご本尊様は旧本堂にお祀りをしております。開山当時から私達をお守りお救いいただいたありがたいご本尊様です。

ご葬儀の進行は長泉寺の職員がサポートいたしますのでこれもご安心下さい。皆様方には葬儀受付のお手伝いの方のお手配のみをお願いしたいと思っております。

法要会食のケータリングの業者様につきましてはご遺族様のご希望される業者にご依頼いただけますよう長泉寺で何件かの業者さんのリストをご準備しておりますのでその中からお選び頂きご相談をいただければよろしいかと思っております。お支払いは直接業者様をお願いいたします。

生花ですが、たくさんの方々から生花を頂く場合、葬儀が終わってからせっかくの供花をば

らして会葬者の方々に差し上げる光景が見られますが、それではいただいた方への礼がちよっと失礼にあたるのではないかと住職としては思いました。なるべく胡蝶蘭や鉢物の花をお供えいただきたい。

葬儀終了後はお亡くなりになられた方のご自宅あるいはご遺族の方々に持ち帰っていただき、そしてお飾りをいただけるように工夫をさせていただきます。長泉寺ならではの供花の提案をしたいと思います。これにつきましては遠慮なくご相談下さい。(胡蝶蘭：大18,000円(税込)、小8,000円(税込) おおとも生花店)

以上です。もし可能であれば事前の打ち合わせなど、気持ちの良い真心のこもったご葬儀ができますようにご相談いただければありがたいと考えております。よろしく願います。

ご不明な点は何でもご相談くださるようお願いいたします。なお改めてプリントでお檀家の皆様方にはこの流れにつきまして詳しくお知らせさせていただきます。失礼いたしました。

## こどもはみんな仏の子（令和元年7月6日）

昨日は、ミネ幼稚園の保護者会において、東京芸術大学副学長・藪内佐斗司先生をお招きし、「子どもは子どもはみんな仏の子！」と題した講演をしていただきました。藪内先生は大阪出身で東京芸術大学美術学部彫刻科を卒業されました



卒業後、仏像などの古美術の古典技法とその修復技術を研究、新薬師寺地藏菩薩立像（奈良市）、平林寺十六羅漢像（新座市）などで東京芸術大学が中心となって行った、保存修復に参加され、1987年、彫刻家として活動を開始されました。

作品には、横浜ビジネスパークの「犬も歩けば」（1990年）など、パブリック・アートも数多く、2004年、東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻保存修復彫刻研究室教授に

就任されました。

一般には、平城遷都千三百記念事業のマスコット「せんとくん」で広く認知されています。

今回の講演では、「ほとけの由来」「せんとくん」「ほとけさまの姿の遷移」等をわかりやすく話していただきました。

また、後半にはお釈迦さんの着物を園児に実際に着付けしていただき非常に有意義な講演でした。（講演内容は後日HPへアップする予定です。）



## 子どもはみんな仏の子

藪内佐斗司でございます。今日はマネージャーの方から幼稚園の皆さんの前で話しますとのことやって来ました。が、どうも大きな幼稚園の方で、普段は園児の前でお話することはないので皆さんの顔を拝見して安心しました。

幼稚園の子たちの物を用意してこようとしたが、なにしろ普段30前後の学生を相手にしますのではなかなか用意できませんでした。

ほとけの由来、そうやったんか！お坊さんも知らない仏像の話を見せていただきます。Eureka!という言葉がございます。これは哲学的な真理を発見した時に、アルキメデス古代ギリシャの人、お風呂に入っていたときにその浮力「アルキメデスの原理」を発見した時に叫んだといわれる言葉で哲学上有名な言葉です。お釈迦様も修行をしてこの世の根本的な法則、達磨というものをお見つけになったときに多分Eureka!と同じような言葉を発したと考えています。



先ほど簡単にご紹介をいただきましたが、わたくし彫刻家でございます。それから東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻保存修復彫刻研究室で教授をしております。やたら長い名前ですが。

それから2010年に奈良県で行われました平城遷都1300年祭のマスケットキャラクター「せんとくん」を作らせていただきました。

彫刻家もやっておりますし芸



大の先生もしていますが、「せんとくん」が私の最大の傑作と言われていて非常に寂しい思いをしております。このような作品なんですけど「童子」わらべの子「子どもはみんな仏の子」のタイトルが有りますが、みんな仏の子だと、仏とは何かというと、この世の法則なんですね。この世でいろんな御恩といいますが、そういうものが様々に出会いご縁によって出会い、そして仮の姿で現れたのがこの世の全ての出来事で有り物事で有る。皆さんも永遠の皆さんではなくてたまたまこの世の中でこの時に出会った我々と言うこと、

こんな話を幼稚園の皆さんにしても全然通じないだろうなと思いついていましたが、多分通じているだろうと思います。

さてその「せんとかん」

ではありますが、「せんとかん」のコンセプトは最初に私が発表します。それは仏法の童子で有る「せんとかん」は、人々の求めに応じて、六観音や三十三身に变化する観音菩薩のように



変身していきますよと最初からコンセプトを立てています。ですから、1300年祭の後もほとんど変身いたしましたしてどうなるかなと思いましたが奈良県に就職いたしました。わたしは嬉しかったですよ自分の息子が公務員になったので仕送りしてくるかなと思いましたが無給でした。でも奈良県庁前にはフィギアがあります。2019年ラグビーのワールドカップがありますが、奈良県がキャンプ地として誘致するためにこのような格好になっています。奈良県は相撲発祥の地と言われていますがこのような形にもなっています。それ

から一昨年になります国民文化祭が行われ、「袴せんとかん」として姿を見せております。

と言うように「せんとかん」は人々の求めに応じてどのようにでも変化をしていく。すなわち我々も今は私という姿でいます。皆さんも一人一人がそれぞれの姿でおられるわけですが、永遠に続くわけではないですね。しかも細胞というのは刻一刻と変わっていきますから今この時の私と10分前の私とは別の人間なんだと正直に言います。それは体の中で細胞がどんどん入れ替わっています。ですから人々どんな生き物であつてもどのような存在で有っても永遠のものはないと言うのが仏教の考え方です。

仏様というのは、みなさん京都や奈良に行かれたらたくさんさんの仏像をご覧になる。仏像っているいろんな格好をしていてよくわからない。と言うことが有ると思います。わかりやすく言うと仏様の姿はお釈迦様の一生を現



しているんですと言うことをおぼえておいて下さい。お釈迦様がお生まれになって、右手を挙げて左手を下げて「天上天下唯我独尊（てんじょうてんげゆいがどくそん）」とおっしゃったそうです。そしてその次に菩薩、これはお釈迦様というのは釈迦族の王族の一人として王子様として生まれたこの時の姿が王子様の姿で後にこれが菩薩の姿になるわけです。王子様と言うのは華やかな装身具を身に着けているわけです。この姿を後ほど皆さんにコスプレで見せします。



観音さまは女の人ではと言われますが、これらはお釈迦様の一生の姿を現していますから男です。何不自由のない暮らしをするんですけれどもそれでも自分以外の人々の姿をみてどんな人でも病や老で最後には死んでしまう。生きていることの苦しみとは何なんだろうと真剣に考えたわけです。お釈迦様が最初に言った「天上天下唯我独尊」と言う言葉、非常に傲慢な言葉のように今で

は思われてますけどこれは、お釈迦様が後にこの世の全ての衆生を助けるためのこの世の根本のないりょうこの世の苦から逃れる道を見つかるそういう使命を持って生まれてきた子ですと言うことの宣言として「天上天下唯我独尊」とおっしゃった。そしてそこへ至るために成長していく過程で、自分はこんなに幸せにしてるけども周りの人は苦勞しているのだなと、あるいはいろんな境遇にたいして非常に苦しむわけです。そして、お釈迦様は出家するわけです。これが如来です。

これは有名な像で国宝ですけど法隆寺にあります。これも女性的な姿をしていますけれどもお釈迦様の王子様の時の姿ですね。こういう風に実際に先ほどのお姿が日本で仏像になっているわけです。

さて、仏法の童子「せんとかん」というのはお釈迦さんの一生の中の何のお姿かという仏法の童子「せんとかん」は菩薩あるいは明王の姿をしている。それはお釈迦様が王子様で有った時代の姿と一緒にですね。それは後ほど着せ替えるときにご覧頂けると思います。菩薩と明王

これはどちらもお釈迦様が王子だったときの姿を現しているのですが菩薩さんはだいたい優しい顔、明王さんは怖い顔をしています。なぜ、優しい顔と怖い顔があるかと言いますと、皆さんもお子さんをお育てになつていらっしゃると思いますが普段は良い子にしている子どもにはにこにここと優しく接しているその時の顔が菩薩。ところが子どもが悪いことをした時に叱る。

その顔を明王です。(プロジェクタ画面を説明)

### (七福神の話)

七福神の話をしましょう

か？七福神有名ですね？

恵比須・大黒・毘沙門・弁

才天・福祿寿・寿老人・

布袋の総称です。恵比須さ

んは日本の神話のいざな

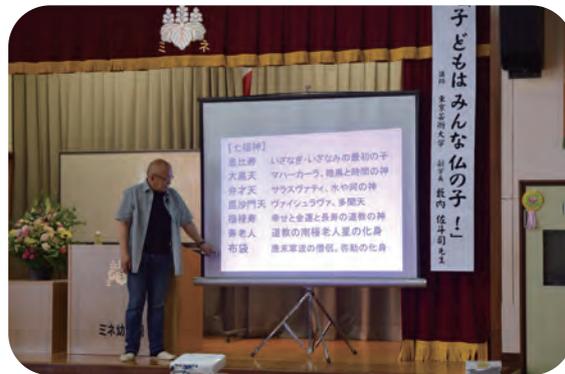
ぎ・いざなみの最初の子と言われています。ですから

恵比須さんは日本の神様です。大黒天、弁才

天、毘沙門天と天がつくのはインドの神様なんで

すね。大黒天はマハーカーラと言い暗黒の神様で

す。弁才天はサラスヴァティは水や河の神。毘沙



門天はヴァイシユラヴァの意識したもの・福祿寿は幸せと長寿の道教の神様。福祿寿から独立したのが寿老人。日本神話から来てます。インドの神様から来てます。中国の道教から来ています。

最後の布袋さん。これは中国の寧波の僧侶です。サンタクローズのように大きな布の袋を背負って多くの人に袋からものを取り出してあげていたそのようなお坊さんです。ですから袋からものを出していたから布袋さんと呼ばれていました。僧侶としてのお名前があるんです。後に弥勒と呼ばれる。弥勒菩薩は現在兜率天(とそつてん)にあつて説法しており、釈迦入滅後56億7000万年後に下生し、釈迦の説法に漏れた無数の衆生を救済するという。下生のときにはすでに釈迦仏の代りとなっているので菩薩ではなく仏となつており、そのために将来仏、当来仏とも呼ばれます。日本の七福神という神様はえらいグローバルなんです。こういうのが七福神なんです。これがその図になります。船にみんな乗っている。日本の仏教は大乗仏教と呼ばれます。(大乗とは異なつた文化や宗教

が仲良く乗り込む大きな乗り物)

南の方、スリランカ・タイ・ミャンマー・カンボジアでは上座部仏教（上座部とは教団の幹部のこと。釈迦存世中の教団を理想とするあり方）です。この二通りがあることを覚えておいて下さい。

それでは最初にお話ししたスクリーンに映しているお釈迦さんの姿のコスプレをしたいと思えます。最初に童子から。



## つく「づ」く法師（令和元年7月24日）

今日は7月24日水曜日です。朝起きて廊下のカーテンを開けたらガラス越しに網戸に蝉が止まっているのが見えました。

アブラゼミです。よく見ると羽化したばかりのアブラゼミのようです。羽の先端は茶色くなっています。が、付け根のところはまだ緑々をしているようです。また前方の庭で何やらモヤモヤと動くものを感じ目をそちらに動かしてみるとやはり同じアブラゼミでした。羽化したばかりなのでしょう、何かの拍子で枝から落下したのかもしれませんが。脚を空の方に向けてモヤモヤ動かしています。

かわいそうに思い、サンダルを履いてその蝉を庭の紅葉の木の枝にそっとおきました。落下しないようなので安心しました。あたりはまた細かい雨が落ちてきます。今日も雨かなと大急ぎで犬の竹千代と散歩に出かけ帰って来ました。すると紅葉の枝にはわせた蝉はいなくなっていました。この間40分。残念なことに落下したようです。スズメにでもきつと食べられたにちがいありません。頭部だけが地面に残され、それにア리가群かっています。

今年は本当に長い梅雨でした。そしてまた梅雨寒で気温も低く、蝉が羽化するにはまだまだ早い夏の気候のように思っていました。

それが例年通りの時期が来れば羽化をする、そのあたりまえの事に驚いてしまった朝でした。

昨日、野口雨情の句が描かれた掛け軸を見たばかりでした。そんなこともあって蝉にちよつと心惹かれてしまったのかもしれませんが。

「わかりましたと 蝸が

けふもお山で鳴いています」 野口雨情

## もうすぐ秋のお彼岸です（令和元年9月11日）

今年は梅雨寒が続き冷夏になるのではと思っていたところ昨年同様大変な熱暑になりました。そんな中、あつという間にお盆が過ぎ間もなく仲秋の名月です。（今年は明後日9月13日です）それが過ぎると、秋の彼岸です。本当に時の流れは速いものです。

さて、最近ある檀家さんから「お盆と秋の彼岸は

近すぎです。どのような違いがあるのですか？」と聞かれました。ご存じの方が多いいとは思いますが、ここで簡単に説明させて頂きたいと思えます。

お盆は、ご先祖様をあの世からお迎えして供養し、その後送り火を焚いてあの世にお帰りいただきます。つまりご先祖様を供養するための行事です。

彼岸とは、向こう岸と言った意味で、この世の反対側つまり仏教で言う迷いない悟りを開いた世界のことなのです。春分の日と秋分の日、春分と秋分は太陽が真西に沈むことからも彼岸(西方浄土)に近づける日とされているのです。このため「善い行いをする」「今の暮らしがあるのは、ご先祖様のおかげであると感謝して過ごす」等自分自身の修行をする期間とされています。なお、お彼岸というのはご周知のように日本だけの習慣で他の仏教圏の国ではこのような風習はありません。

つまり、お盆は夏、お彼岸は春秋という時期の違いに加え、お盆は帰ってくるご先祖様の霊を迎え入れる、お彼岸はこちらから近くまで行ってお招きするという違いもあります。

人は都会に出ていき核家族化がすすむとともに、このような行事を含め宗教離れが進んでいると叫ばれ

てはいますが、これからも古人に負けない宗教心を持ち続け、このようなありがたいお盆や彼岸の教えをずっと伝えていけるような日本人であって欲しいと願うばかりです。

### 三世仏（令和元年9月27日）

お彼岸も過ぎてしまいました。

毎日毎日ご本尊様をお参りさせていただく衣も、そろそろ夏物からすなわち紗から絹に変え、建具も夏戸からいわゆる冬戸障子を入れる時期がやって来ました。来年の3月まで長く続く、寒い時期がもうすぐそこまでやって来ようとしています。

長泉寺のご本堂のご本尊様はお釈迦様、そして



向かって左側が阿弥陀様、向かって右側が弥勒様、三世仏をお祀りしております。お釈迦様は現在仏、阿弥陀様は過去仏、そして弥勒様は未来仏。お釈迦様の体内にはこのご本堂を建てて頂いた時のお檀家さま方の様々なお願い事やいろいろなお手紙、あるいは家族の写真とか印鑑とかいろいろなものが収められていて、私たちを優しく見守って下さっています。

さて、お釈迦様のお姿には、修行をしてお悟りを開くまでのお姿を示す降魔坐ごうまざという手の組み方、それからお悟りを開かれた後の吉祥座という大きく分けて2通りのお姿がございます。それで私は、このご本尊様を仏師様をお願いして制作していただく時にどちらのお姿にしようかと悩みました。日本にあるほとんどのお釈迦様の像は吉祥座と思いますが、私はご本尊様とともに日々修行させて頂き仏様のよいうなお顔になりたいと思っておりましたので、あえて降魔坐にさせていただきます。ですから私はお釈迦様と共に毎日坐禅をして座らせていただいております。ありがたいことです。

また先ほど申し上げましたように、体内に収められたお願い事は人さまさま勝手なお願いばかりだろ

うし、それをお聞きになられるご本尊様も大変だろうと思ひ、お顔は穏やかなお顔よりもやや厳しいお顔に、まあ渋い顔といえますか、仏頂面と申しますかそういうお顔にとお願いをして制作していただきました。最近しみじみとお顔を拝見すると、瀬戸内寂聴様が何かでお話をされていたように、ご本尊さまというものは毎日毎日私たちの救済のために座って下さるとだんだんだんお顔が優しくなってくると言う話の通り、我が寺のご本尊さまのお顔も穏やかになってきた感じがします。

やはりもっと優しいお顔にすべきだったかなと、反省して思うこともあります。お参りにおいで頂きましたおりに、どうぞご本尊さまの前にお座りいただき、ご本尊様に手を合わせられ、穏やかになられたご尊顔にお会いしていただきたいと思ひます。

話はちよっと変わりますが、皆様はどのようなお線香をお使いでしょうか。お線香の箱を開けるとお線香を保護する薄紙とともに小さなメモが封入されている事があります。読んだことはあるでしょうか。今日、新しく箱を開けた線香には以

下の文が添えられていました。

「朝に敬虔な礼拝、夕に感謝を念じつつ心を込めてよい匂いの線香を捧げましょう。仏様の要求ではないからとて安い香気のない線香は単に装飾に過ぎず、敬仏崇祖の美德は却って形式化されます。たいしても俗臭なのは嫌悪を感じますが、奥床しい香りは馥郁として邪気を払い、忽ち懐かしき感動が湧き心身共に浄化されます。之れ香が気分を重んじる儀式の席に用いられる所以です。」（大阪・堺薫明堂主 謹述）とあり、なるほどと感じいました。

お盆からお彼岸までいろいろな事がありました。角田では市議会議員の選挙がありました。また、強い台風15号は関東地方に多くの被害をもたらしました。さらに今まで事件が少なかった地域にても殺人事件や悲しい事件も増えています。どうぞ、心を穏やかにして自分を反省する場所、内観する場所としてお寺にお参りいただき、ただ手を合わせるだけでなく仏様と語り、自分自身を取りもどす信仰の場としていただければありがたいと思います。失礼いたしました。

## 立冬（令和元年11月8日）

東日本各地はもとより、宮城県各地、そして角田、丸森に大きな被害をもたらした台風19号から早いものでひと月が経とうとしています。

台風19号の豪雨では長泉寺の檀家の多くの方々が被災されました。これは大変なことになりました。しかも今日は二十四節気のひとつ「立冬」です。来年の3月まで長く続く寒い季節がやって来ました。

寒さに向かって復旧作業にあたるご苦労は想像にあまりあるものがあります。重ねて心からのお見舞いを申し上げます。

台風当日の朝、長泉寺でも山門前の道路が今まで見たことのない、まるで川のような状況で恐怖を感じました。

本堂等の建物には被害がありませんでしたが、中央墓地では何カ所か法面が



崩落したり倒木により危険な箇所が発生しました。現在、応急的な修復に全力を尽くしています。

後日、しっかりとした修復をと計画しています。が、お参りの際には十分気をつけて下さるようお願い致します。

今回の大雨では「想定外」と言うかつて聞いた「決まり文句」の言葉を繰り返しましたが、自然の力をあなどっているようで、それは違うのではないかと腹立たしく感じました。

考えてみれば、私達が毎日毎日何気なく過ごしている生活そのものでさえ「想定外」の連続ではないでしょうか。「言い訳文句」的な言葉など聞きたくないものです。

お参りにおいで頂きましたおりに、どうぞご本尊さまの前にお座りいただき、ご本尊様に手を合わせられ、穏やかになられたご尊顔にお会いしていただきたいと思います。

さて、今年も市内・稲置の遠藤英一様からご自身で作られた見事な菊がたくさんお寺に届きました。飾って下さいと、ありがたいお申し出を



頂いたのです。

ご先祖様へのご挨拶にお参りに来られた際には、ぜひ鑑賞していただければと思います。

### 年末（令和元年12月8日）

昨年は「平成」最後の年末と言うことでテレビや新聞等のメディアで平成の特集が多く見受けられました。また、新しい元号が未定であったためカレンダーに和暦はなく西暦2019年との表記しかありませんでした。そして、今年5月1日から新しい時代「令和」が始まりました。

さて、昨年私はこの時期に平成の時代を振り返り、「私たちの住む角田で一番大きな出来事は「東日本大震災」だと思います。」と記しましたが、この新しい時代「令和」の始まりに台風19号による豪雨で東日本、特に角田・丸森地区では未曾有の大災害に襲われました。

私は今年の年の瀬に、今回の被害以上の大災害に襲われることが無いことを強く念願します。

皆様も年末はお忙しいと思いますが、年末年始の行事は例年通りですので、どうぞお参りにお越し下さい。お待ちしております。

12月14日(土) 午後1時 「巳正月」 祈祷供養

12月18日(水) 午前8時〜長泉寺 山内大掃除

12月20日(金) 午後5時〜こども食堂

12月21日(土) 午前11時 年末大祓大般若祈祷

12月24日(火) 午前10時 歳末助け合い托鉢

12月28日(土) 全日仏事全休日

12月31日(火) 午後11時 除夜の鐘

1月3日(金) 午前10時 新年大般若祈祷会。

## クリスマスの日 (令和元年12月25日)

今日は12月25日、所謂世間で言われるクリスマスの日です。けれどもお寺にはクリスマスもなければお正月ということもありません。毎朝四時半に起きて部屋で坐禅をし、仏様に仏飯をお供えし、お線香をあげます。そして朝の勤行(朝課)をして6時には朝の梵鐘を撞き、また夕方には夕べの祈りのお経(晩課)をし、雨戸を閉めそしてまた夕方5時の鐘を撞きます。毎日毎日同じ生活の繰り返しです。ま

さに「山中、暦日無し」の生活です。

さて、12月22日は冬至の日でした。3日しか経たないというのにずいぶん夜が明けるのが早くなりました。鐘を撞いていて、東の空がどんどん明るくなるのを感じます。

そういう話を托鉢の立ち話でしてあります。ある女性の方は「そうです。私も電気をつけなくても朝お化粧できるようになりました。朝が早く明けるのが分かります」とお話をされ、なるほど人によって時間のうつろいを表現するにはいろいろな感じ方があるものだなと感心した次第です。

先日もある葬儀社さんの方とお話をする機会がありました。その方は山形県新庄市出身の方でした。学生のころ私も新庄に遊びに行った経験がありますので、「夏の日の新庄まつりは忘れられないですね」と言ったら、「いいえ、夏が来ておまつりが来るわけではありません。新庄まつりが来て夏になるのです」と諭されました。これにも私は感心しました。その土地の人でしか理解できない感じ方があるものと驚きました。

ところで、近所にAさんというとても信心の篤

の方がおります。その方からも昨夜「クリスマスデコレーションケーキ」が届きました。そこで「デコレーションケーキ」と言ったら、「お父さんそれはホールケーキと今は言うんだよ」と家族のものから教えられました。同じものを表現するにも時とともに言葉は変わるものだとなりました。

AさんからXmasケーキが届くようになって、もう35年にもなります。ありがたいことです。Aさんの髪も白さがだいぶ増えました。「昔はこれにはシャパンが2本ついていたのに最近はなくなったね」とAさんは苦笑いしました。わたしたちも笑いしました。

そうしているうちに、話題は自分も独身だからとAさんの永代供養の話となり、なんだか変なクリスマススイブになりました。

今年は色々なことがありました。新しい年が良い年であるように、お祈りをして年の瀬をおだやかに過ごしたいものだと思っております。

除夜の鐘は例年通り大晦日の夜11時から撞き始めます。皆さんのお出でをお待ちしております。この一年間ありがとうございました。

※「山中、暦日無し」

世間を離れ、規則正しい生活の中に晴々とした心を養い、ゆったりと生活すること。

山中に引きこもり、勝手気ままに生活することではありません。

12月28日(土) 全日仏事全休日

12月31日(火) 午後11時除夜の鐘

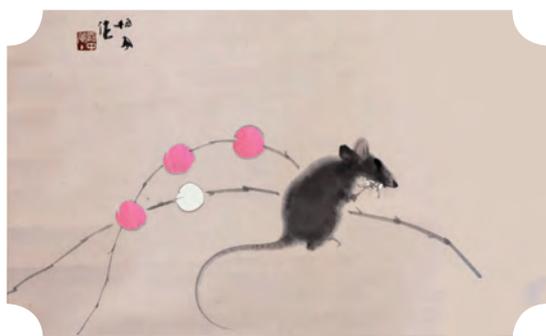
1月3日(金) 午前10時新年大般若祈祷会

※12月30日から1月3日は葬儀を執行します。  
ん。(他の仏事は行います。)

### 新年のご挨拶 (令和2年1月1日)

令和時代、はじめてのお正月となりました。皆さまおそろいで佳い春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は台風19号等による大水害で、私たちの住む角田・丸森も甚大な被害を被り、また多くの尊い人命を失いまし



た。心からお悔やみとお見舞いを申し上げ、一日も早い復旧復興をお祈りいたします。

さて今年はずみ（子）年です。

むかし昔、あるところにねずみの夫婦がおりました。その夫婦は自分たちの娘に日本一強いお婿さんを欲しいと思い、まず太陽に申し出ました。すると太陽は、自分の光をさえぎる雲のほうが強いと言いました。そこで雲に申し出ると、雲は自分は風に吹き飛ばされるので風のほうが強いと言いました。また風に申し出ると、風はいくら吹いてもびくともしない壁のほうが強いと言いました。

そこで壁に申し出たら、壁は自分の壁に穴をあけるねずみのほうが一番強いと言いました。そこで結局、夫婦は自分の娘を仲間のねずみに嫁入りさせました。めでたし、めでたし。おしまい。有名な「ねずみの嫁入り」のおはなしです。

禅宗の有名なことばに「脚下照顧（きやくかじょうご）」があります。つねに「回光返照（えいこうへんじょう）」して他に心をうばわれることなく、自分の足もとを見て自己点検、手がたく堅実な一年としたいものです。皆様方のご健勝とご活躍、ご繁栄とご発展を心よりお祈り申し上げます。

昨年は色々なことがありました。新しい年が良い

年であるように、お祈りをして年の瀬をおだやかに過ごしたいものだと思っております。

### 30年前の卒業式（令和2年2月4日）

おはようございます。

30年程前に体験した、ある小学校の卒業式の出来事について書こうと思います。その卒業式の来賓として、私は席に着いていました。いよいよ校長先生の式辞のとき きました。校長先生はご自身がなぜ先生となられたか、そのためにどんな苦労があったか、なぜ苦労を乗り越えられたかについてお話されました。

先生は駅からバスで2時間半もかかる山奥に生まれました。小学校も中学校もずっと分校育ち。お友達がたくさんいる大きな学校で勉強したいと思うようになりました。また学校の先生になつて、教え子に夢を与える先生になりたいと考えるようになりました。そして、東京師範学校（現在の筑波大学）に入り、教師となるための勉強がは

じまりました。

けれども先生には大きな悩みがありました。それは、山奥で育ったからでしょうか、発音がうまくできませんでした。「東京」を「とうちよう」、「今日」を「ちよう」、「勉強」を「べんちよう」、「卒業」を「そつによう」としか言えません。何度練習しても言えませんでした。だから東京の人からも師範学校の仲間からもズー弁と笑われました。けれどもズー弁でも正しいことを相手に伝えるよう一所懸命に話すれば、笑う人はいなくなるということも知りました。だから子ども達とまっすぐに向かいあい、真剣に話すればきっと立派な先生になれると思いました。校長先生のお話は続きます。

さて、皆さん先刻の挨拶を聞いて笑った方々が多かったですね。でも私は心の 中では正しく「きょうはそつぎようしきおめでとう」と叫びました。きつと皆さんには「ちようはそつにようしきおめでとう」と聞こえたことでしょう。(一同、どつと笑う)

子どものころに身についてしまったことは、大人になつてはなかなか直せません。どうぞ小学校で学んだ正しいことは忘れずに、間違つたこと、悪いことは身

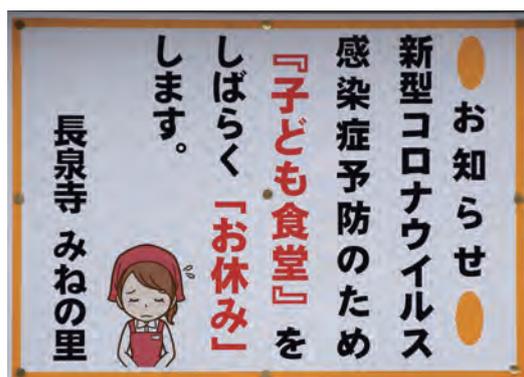
につけぬよう愛情をもってお子様を大切に育てて下さい。(私はハンカチで涙を拭きました)  
(この卒業式は校長先生の教員生活最後の卒業式でした。)

### 一斉休校 (令和2年3月4日)

おはようございます。

この3月2日から小学校、中学校、高等学校そして特別支援学校の大部分が全国一斉に休校となりました。ご存知のようにこれは新型コロナウイルス感染症拡大防止策の一環です。

私たち角田市の各小学校、中学校、高等学校、特別支援学校も一斉に休校となりました。ただし幼稚園並びに保育所等幼児教育の施設は休校の措置から除外され、各自治体あるいは各園の判断に



委ねられることとなり、私たち長泉寺で運営をしているミネ幼稚園では休園とせずに普通通りの保育を現在も継続して行っております。

私はつねづね子供たちの楽しく遊ぶ姿、にぎやかな声、それらが社会を元気づけ明るくする大きな原動力になると考えております。また幼児がウイルスに感染する比率も少ないというお医者様からの助言もあり、一部保育内容を変更することはあっても、卒園式も入園式も簡素化等の工夫をして開催する予定です。(3/4現在、在園児数126名。欠席率7%)

考えてみればそもそもこのような感染症の原因は子供にあるのではなくむしろ私たち大人の世界にあるのではないでしょうか。大人の理由で子供の学校生活に支障をきたすというのでは子供たちにとっては大変迷惑なことでありかわいそうなことであると考えます。

別紙のような幼稚園としての対応策をこのホームページをご覧の皆様にご公開を試みたいと思います。どうぞより良いご指導ご支援をいただきたいと思います。(長泉寺ファクシミリ 0224-63-0063)

なお全国的にマスクが不足している状況ですが、私たちの角田市に本社をおくアイリスオーヤマ(株)さ

んでは昼夜兼行でマスクの増産をし、がんばってくれております。どうぞ我が町のアイリスさんにも応援をしてくださればありがたいと思います。

一日も早くこの感染症が収束することを願って今日のご挨拶とさせていただきます。どうぞお体をお大事にされてください。

### 自利利他 (令和2年4月3日)

新年度が始まりました。4月1日は年度変わり入学式や入社式等々、まがりなりにも社会全体が新しく令和2年度としてスタートしました。何とかミネ幼稚園でもこの4月10日に新しいお友達を迎え入園式を行う予定です。寒い時期が過ぎ桜が咲き、気分が一新され二度目のお正月のような気持ちになるのですが、、、。

ところが、今年の春は「新型コロナウイルス感染症」の拡大、それに伴う予防対応等で入学式や入社式は中止や規模縮小と残念ながら明るい門出にはなっていません。さらに感染症拡大は止まらず。先

が見通せなくなっています。そのような中、気になる報道がいくつも流れています。

例えばクラスター（小規模感染集団）の中心の学生の行動（この時期に卒業旅行だからとわざわざ海外へ感染しに出かけていくのか？帰国後の軽々な行動）です。これらは今の不安な時に飛びつきやすいネタなのかも知れませんが、テレビのワイドショーやネット等で集中砲火を浴びせるのもいかなものかと思えます。（今回の発生源、すなわち中国武漢市民についての非難を聞いたことはありません）。

しかし、不要不急の外出は控えるようにとの役所からの要請にも関わらず、自分だけはウイルスに感染しないとも思うのでしょうか。無防備に外出する人（若者？）の行動を視て、ひとつの仏教語を思い出しました。それは、「自利他(じりりた)」という言葉です。

自利利他とは「自利」と「利他」。自利とは、自己の修行の功德利益を自分だけが得ることをいい、利他とは、他人に功德利益を施し、衆生を救済することをいいます。そして、この両者を完全に両立させた状態に至ることが大乘仏教の理想とされ、二つの行が完成（円満）すれば仏となると言われています。

す。ですから「自利」のみでは、これはいわゆる個人主義の思想と同じ境涯に陥ってしまいます。

これに対し、「自利利他」は集団に所属する一員としての役割や権利を相互に尊重しあう立場のことで、「自（私）利」が「利他」に優先されるというワガママを容認してしまつては成り立たない概念です。ここから自分の利益を最優先にして他人や社会全体の利益を考えようとしない身勝手な態度は利己主義と呼ばれます。これでは社会全体で感染症を封じこめることは出来ません。

この新型コロナウイルス感染症がいつになつたら収束するかそれが全くわからないという現在の状況ですが、自利利他の精神で嵐が過ぎるのを待つしかないと思っています。桜の花は季節になると咲きそしてまたアーモンドの花も咲きました。

世の中の出来事とは関係なく季節が来ると花は咲くものです。どうぞ皆様も健康とウイルス対策を真摯に受けとめこの難局をとともに乗り越えてまいりましょう。

※院内感染の現場となつた病院、大阪のライブハウス、仙台の英国風パブ、果ては葬儀や法事などなど、まるで悪者のように報道される態度に強

く?です。悪者はウィルスであり「三密（密閉、密集、密接）」であるはずです。

「相互扶助」「互恵互助」を思い出しましょう!:

「自利利人(他)の法は皆自合す」(『仏遺教経』より)

## 忘己利他 (令和2年4月16日)

前回のホームページで「自利」と「利他」について書かせていただきましたが、文中で「私利」についても述べました。ある読者から次のような質問が来ました。それは「いわゆるガリガリ亡者という言葉がありますか、その場合の「我利」という言葉も仏教語ですか?」ということでした。

ガリガリ亡者とは自分の利益だけを考えて他を顧みない人を卑しめて言う言葉です。ですから意味としては私利も我利も同じように思えます。けれども我利という言葉それ自体は中村元先生の仏教語大辞典にも出てきません。

また「我利益」という言葉は仏典には出てまいません。この場合の「我利益」はまさにガリガリ亡者

のガリと同じような意味合いです。ですから我利益と言う言葉は仏典には見えますが「我利」という言葉それ自体は仏典には出てこないように思われます。

さて亡者と言う言葉ですが、これは死んだ人あるいは亡くなった後その魂が成仏しないで冥土をさまよっている人という意味です。この言葉は「梵網経」や「首楞嚴経」に出てまいります。ですからガリガリ亡者というのは何でもかんでも自分中心的な方を罵って言った言葉ということになります。

ガリガリ亡者と同じようにガリガリ坊主という言葉も聞く時があります。これではなんだかちょっと悲しいですね。坊主というのはその昔お寺いわゆる御坊（一坊を構え坊号を称したので世間はその坊を御坊と呼ぶようになりました）その御坊を守るお坊さんの中心的リーダー、いわゆる主、これを坊主と言いました。けれども室町時代以降は一般の僧侶の呼び名となったようです。

今日ではお坊さんのことをちょっと卑しんで坊主と呼ぶ方もいるようです。残念ですね、、、。おっと、話を前に戻しましょう。

自利利他という言葉と引けを取らない良い言葉がもう一つございます。それは「忘己利他」と言う言葉です。己を忘れて他を利すると書きます。すなわち自分のことは忘れ、ひたすら他の人々を利益する事、これを「もうこりた」と読みます。今、新型コロナウイルス感染症にかかっている患者さんを自分の身を削りひたすら治療に打ち込んで下さるお医者さんの姿、これが忘己利他の姿の一つであると私は思います。ドクターのみなさんに感謝するばかりです。

そして私たちが3「密」の教えやルール、あるいは人との接触を極力控える等々、自分で自分を守る努力をする事それがお医者さんに対する自分自身の忘己利他になるのではないかと思えます。ぜひ国や自治体がお示されているルールに従って粛々と、このウイルス感染症の難局を乗り越えていきたいものだと思えます。本当にお医者様の昼夜分かたずの偉業に敬服をするばかりです。

失礼しました。

## 未確認飛行物体（令和2年6月21日）

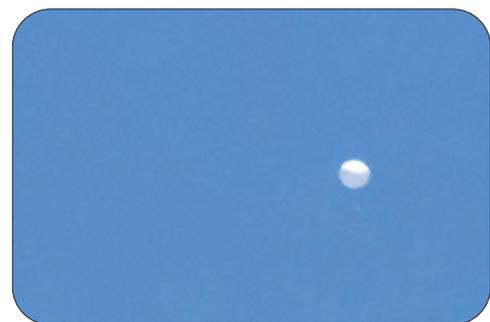
先週東北南部が梅雨入りし、じめじめの季節が始まったところでしたが数日前は快晴で青空に浮かぶUFO（未確認飛行物体）を角田でも確認する事が出来て大いに盛り上がりました。(〆^)

### 新型コロナウイルス感染症も緊急事

態宣言が解除され宮城県を含む東北地方では落ち着いている状況です。ミネ幼稚園も感染症対策の準備を整えて5月25日より再開し子どもたちの元気な声が聞こえるようになりました。

また、3月からお休みしていた「みねの里・子ども食堂」も小学生以下に限定、人数制限等を設け6月18日より再開しました。（次回は6月30日（火）の予定です。）徐々に今までの日常が回復してきているようです。

しかし、治療薬やワクチンが開発され多くの人々に行き渡るまでは油断は禁物です。新しい生活様式（社会的距離の確保、マスクの着用、手洗



いそして3密の回避)を心がけていかなければなら  
ないと思います。

新型コロナ感染症が落ち着いてきている事、そし  
て暑さのせいからか街中ではマスクを着用しない方  
も増えてきているように見受けられます。暑さと  
の兼ね合いもあります。自分の周りの状況を確認  
しながら人と接する場合にはマスクの着用を心がけ  
てほしいと思います。月並みですが、自分だけ、  
ちよつとだけが新型コロナウイルスに隙を与えてしまいま  
す。感染症の収束を早めるためにも我慢をもちなが  
ら新しい生活様式を実践していきたいと思ひます。  
失礼いたしました。

※「我慢」は、仏教の煩惱の一つです。仏教にお  
いておごり高ぶる心の状態を表す状態を七つに分け  
たものを「七慢」と言ひます。

我慢はそのひとつです。

1. 慢(まん)

自分より劣っている人に対しては自分のほうが優  
れているとうぬぼれ、同等の人には自分と等しいと  
心を高ぶらせる心。

2. 過慢(かまん)

自分と同等の人に対して自分の方が優れている思

い、自分以上の人は自分と同等とする心。

3. 慢過慢(まんかまん)

優れている人を見て自分はもっと優れていると  
うぬぼれる心。

4. 我慢(がまん)

自負心が強く、他人を軽んじる心。

5. 増上慢(ぞうじょうまん)

悟っていないのに悟ったと思ひ、得ていないの  
に得たと思ひ、おごりたかぶる心。

6. 卑慢(ひまん)

非常に優れている人を見て自分は劣っている、  
と思つ心

7. 邪慢(じゃまん)

間違つた行いをしてても正しいことをしたと言ひ  
張り、徳が無いのに有ると思つ心。

現在、一般的に使われる意味合い(辛抱するこ  
と、耐えること)とだいぶちがいますが、これは  
長い歴史の中で先人たちの生活の中から変化して  
いったものだと思われまひます。

## もうすぐお盆（亡者のたわむれ）（令和2年7月22日）

ご無沙汰しております。今日は7月22日。ただいまの時刻は午後の4時です。室温は28度。梅雨の一日と言うのでしょうか今日は大変むし暑く天候も晴れで、お葬式から戻りました私は汗びっしょりです。

さて東京の方ではもう7月のお盆は終わりました。私たちの住む東北は来月の8月がお盆。いわゆる旧盆の時期を迎えます。浄土の仏様たちは今頃どんな風になっているかちょっと想像してみます。・・・さあ娑婆の世界に帰るクルーズ船に乗り込もうとたくさんのお盆様がお集まりになっています。おや、どこかで見たような方もいらっしやいます。

「おー森の石松くんじゃないか？石松くんは江戸っ子だってねえ」

「神田の生まれよー！」

「あれ神田の生まれでござんすか、それじゃあ石松さんあなたは東京に帰れないよ。」

「えーなんで」

「だってね東京発着の人間はねえ旅行に行けな

いっていうんだよ」というわけでGoTo娑婆のクルーズ船も大騒ぎでございます。

さて娑婆の世界では政府が主導するGoToトラベルで今大騒ぎです。したがってその逆さの世界の仏の亡者の世界でも帰れるか帰れないかで今大騒ぎ！困りましたね。

けれども娑婆にもいろんな奴がおりまして、ならば葬儀などはしたくない、法事などはまっぴらだ、お盆などは面倒くさいというような信心の浅い、むしろ信心などという言葉も知らない人間が新型コロナウイルスのこの流行にまさに渡りの船、なんでもなすがまま自由自在勝手な振る舞いをしております。お盆を迎えて亡者のご先祖様を迎えるなんていうのはとんでもない、そういう輩の集まりです。

さーお盆はどうやってお迎えしたらいいでしょう。どうやってお迎えできるように人間がならなければならいでしょう、困った世の中になりました。

こういう世の中にあっても、当長泉寺では下記のように「施食会」「新盆供養」「永代供養された方々へのお盆供養」を行う予定にしております。

す。

施食会注要・8月4日(火)～8月8日(土) 每晚7時～

新盆供養・・・8月10日(月)

①午後1時～令和元年6月～10月逝去の方

②午後2時30分～令和元年11月～令和2年2月逝去の方

③午後4時～令和2年3月～6月逝去の方

※密を避けるため命日による分散開催を行います。

永代供養者お盆供養・・・8月15日(土) 午前10時～

どうぞマスクを着用の上、しずしずとお越しくださるようにお待ちをしております。長泉寺では3密を避け注意をして皆様のおいでを環境を整え、衛生に気遣い、お待ち申し上げております。

おっと忘れるところでした娑婆で使っているお金はあの世では通用致しません。ですからもう娑婆のお金はどんどんどんどんとお寺にお捨てになって、一気に俗世の汚れを落としてほしいと思います。

嘶家の先生方にもお願いします。新型コロナウイルスで心まで病んでしまったバカバカしい世の中になっちゃった日本です。さかさ「地獄八景、亡者のたわむれ」でもお話し下さって、たまりにたまったウサを晴らして下さいよ。お願いします。

※参考・・・落語『地獄八景亡者戯』

## 立秋もお盆も過ぎて (令和2年8月19日)

「立秋を迎え、お盆が終わってみたら朝夕めつきり涼しくなりました」と、挨拶をするつもりでいましたが、お盆を過ぎても連日の猛暑になっています。以前は就寝前にエアコンのスイッチを切ったのですが、この暑さでは熱中症対策としてエアコンは朝まで働きづめで主人の体調管理に頑張ってくれています。(たくさんの仏様もこの暑さにはビククリしている事でしょう)。

一度は落ち着いたと思われた新型コロナ感染症も第2波の流行の兆しの中、新しい生活様式に追い打ちをかけるような猛暑です。

仙台管区気象台のHPによると「宮城県の気候は典型的な太平洋側の特性を示すが、その中でも平野が広がる東部と、山地が多い西部に大別される。

仙台平野から北上高地の南端にかけての東部は、太平洋に面しているため海風が入りやすく、夏の暑さはあまり厳しくない。東北地方の中では冬もわりあい暖かく、一年を通じて比較的穏やかな気候である。奥羽山脈の裾野にあたる西部は夏

は厳しい暑さはないが、冬は奥羽山脈をこえる季節風の影響を受け、県内では比較的降雪の多い地域である」とあります。

けれども昨今の気象状況を考慮すれば、状況に応じて表現を適時変えることが必要ではないかと思わせる天気です。

ところで、お盆が過ぎると来月には秋のお彼岸がやって来ます。お盆とお彼岸の間隔は近く、どちらかを不要不急としてお墓参りをパスせんとする不屈きな方もおられますが、両者の供養のあり方の違いは歴然としています。

お盆は月遅れの8月15日を中心として行われるご先祖様の霊を迎え入れる行事で、ご先祖様と過ごして感謝する期間の行事という点では彼岸会供養と共通していますが、お盆は夏、お彼岸は春秋という時期の違いに加え、お盆は帰ってくるご先祖様の霊を迎え入れるのに対し、お彼岸はこちらから悟りの世界（すなわち彼岸）へ向かう仏道精進の行事という違いです。ですから、お彼岸のお墓参りに来られた際にはお寺にもお気軽にお立ち寄りいただき、ぜひ日常のお話をお聞かせいただきたいと思います。

まだまだ暑い日が続きます。「暑さ寒さも彼岸ま

で」と言われていますが、新型コロナウイルス感染症及び熱中症にも十分気をつけてお過ごし下さい。

## 年の瀬に（令和2年12月24日）

令和2年も残すことあとわずかになりました。早いものです。今年は色々なことがあまりにもたくさんあり、これからお正月を迎えるというような気分になりませんか。正直言って何か今年は疲れました。



心身ともに疲れました。そんな気がいたします。皆様方はいかがでしょう。

さて去る12月18日に歳末助け合いの托鉢を行い角田市内を歩かせていただきました。ご協力いただきました皆様には感謝を申し上げます。

これを機に、今までの収支を纏めましたのでそ

角田市社会福祉協議会へ8万2,670円、丸森町社会福祉協議会へ5万2,000円をお届けすることができました。本当に協力ありがとうございました。

なお、丸森町への支援金は長泉寺という名前ではなくて一緒に参加していただきました曹洞宗青年会のお名前でご寄付させていただきましたことを申し添えておきます。

本来は禅宗ですから日々托鉢をすることが当たり前の生活ですが、年1、2度の托鉢の「行」しか積めないことをただ恥じるばかりであります。お経を読む会も12月15日をもって今年の例会を閉じ来年は2月1日からのスタートです。坐禅会も12月13日で納会、新年は1月17日からの開始となります。会員の皆様には常に健康でご出席下され、感謝を申し上げます。

さて、今年は初めてコロナウイルス退散の意味で疫病退散のお札

をお作り致しました。12月12日の巳正月供養大般若祈禱会、12月19日の



除災招福大般若祈禱会、12月21日の一陽来福大般若

冬至祈禱会そして来たる1月3日の新年大般若祈禱会の4度にわたるご祈禱を重ねお檀家の皆様方にお届けしたいと考えております。

なお角田・丸森以外の地域にお住まいのお檀家様については、12月12日・12月19日・12月21日の3回の祈禱を済ませたところで郵便業務が混雑するという配慮からすでにこれを発送させていただいてるところです。お許しくださるようお願いいたします。来年は新型コロナウイルス感染症の1日も早い収束をお願いし、陰が極まって陽がかえってくるように幸福の運が早く向いてくることを願いたいと思います。

さて浄土真宗の親鸞聖人様のお言葉に「葉があるからといって、毒を好んではならない」というような言葉があるとお聞きしました。コロナウイルスのワクチンが間もなく認可されて私たちの手に届くようになるという情報がありますが、この親鸞聖人のお言葉通り、コロナウイルスのワクチンが誕生すれば安心だと思っるのは間違いでしょう。ワクチンの有無にかかわらず私たち一人一人が自分の生活を見直し、マスクを着用し、手指をアルコール消毒し、そして3密を避け、仕事が終

われればまっすぐに自宅に帰り、家族と楽しい生活を過ぐす、というような現代に於ける清貧な生活をする事、これに徹することの大切さを忘れてはならないと思います。

曹洞宗のお坊さんたちときたら、葬儀をインターネットで配信したり、あるいはネットで坐禅だとか法話だとかいろいろ電子媒体に頼る向きが増えておるようですが、直接、顔と顔をあわせる人と人の出会いによって生み出される心と心の通いあい、そういうものを大事にしなければならぬのではないかと一層大事にしなければならぬのではないかと自身に言い聞かせています。

ともあれ、あと1週間ほどで2021年（令和3年）を迎えます。皆様にとりましてより良い年となりますよう心からお祈り申しあげます。今年1年大変ありがとうございます。来年もよろしく願いいたします。

なお年賀状はこれまで通りお休みいたします。非礼をお許し下さい。

## 火の用心（令和3年1月7日）

あけましておめでとうございます。

みなさまおそろいで、

よい春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

今年（<sup>うし</sup>）は丑年。水牛に乗る六足の忿怒形の明王「大威徳明王」のお出座しを願いたい年でもあります。この明王は、あらゆる災いに打ち勝ち、平安時代以降、戦勝祈願のための本尊としても信仰されました。

今年、年始めから首都圏を中心に新型コロナウイルスの感染者が急増し、本日には昨年の四月以来二度目となる「緊急事態宣言」が発出されました。宮城県においても感染者が増加傾向にありますが一日も早く感染者の増加が収まることを願っています。ですから、どうか大威徳明王さまの御出座を願うばかりです。



さて、江戸時代のものに「火の用心カルタ」という48枚のカルタがあります。それを見ると、防火に対する毎日毎日の注意、気配りの大切さを訴えているのが分かり、そこから家庭円満・商売繁盛が育つと示唆しています。

なぜ「火の用心」の注意が家庭円満、商売繁盛にまでなるのでしょうか。それは「気配り」という力があり、それは周りの状況をよく観るからです。よく観ればよく考え、従って智慧と優しさが育ちます。

気配りをしていれば家族の顔色や心の動きも見え、考え深くもなります。子どもがいじめに遭い、あるいは反抗し、夫婦に心の隙間ができてくる時も気配りの智慧と優しさで相手の顔がよく見えれば、おのずと家内円満・身体健全になると説いています。「火の用心」という毎日の気配りをする事によつて、その智慧と注意力が育つのです。以上、江戸時代の先人達の智慧に学び、脚下照顧したいものです。

これから寒さが一段と厳しくなります。健康第一、コロナに用心、火の用心でお願いします。ご尊家皆様方の益々のご健康とご活躍、ご繁栄、ご発展を心よりお祈り申し上げます。

「臥牛門」の復元完了と、臥牛館主でもあり角田邑主の石川昭光公「四百回忌法要」がこのウシ年に行われるのも何かのご縁かと感じております。

### 雨水の日におもふこと（令和3年2月18日）

今日は2月18日、二十四節気の一つ「雨水」です。「降る雪が雨に変わり、雪解けが始まる時期」という意味で二十四節気の2番目で、春を6つに分けたうちの2番目の節気にあたります（立春、雨水、啓蟄、春分、清明、穀雨）。陽ものびてきて春も近いと思わせますが、先週土曜日の地震でそれどころではない方も多いのではないかと思われます。本当に強い揺れでしたね。

今回の地震では長泉寺でも被害をうけました。庫裡前庭の出生台すいさんだいの石柱が倒れ、鐘楼正面の経蔵屋根の瓦しゃちほこが落下しました。また本堂等の内部でも壁に多数のひびわれが見られています。歴代住職の墓石数基もズレてしまいました。

お檀家様方の墓石等の被害のないことを祈るばかりです。

そして、長泉寺では余震の沈静化をみながら復旧に努めていきたいと考えております。

さて、来月11日で東日本大震災から10年になります。また、ワクチン接種がスタートしたとは言え、新型コロナウイルス感染症の収束は見通せません。巨大地震もいつ発生するか分かりません。

いま生命あるは有り難し。他人にとっても自己は愛しいものです。また幸福はいくら分け与えても減らないものです。互いに助け合う心を忘れてはなりません。

※出生台（すいさんだい又はしゅっさんだい）・・・禅宗の作法の一つとして昼食の際、応量器（食器）中から米粒7粒ほどを母指と人差し指とを用いてつまみ、野鳥や諸鬼神への供養のためさし出します。これを生飯せいぼんといいます。これをとり出し、のせ与える台を出生台といいます。

#### （春の六節気）

立春・・・二十四節気の最初の節気で、この日から暦の上では春となり、さまざまな決まりごとや節目の基準

雨水・・・雪から雨へと変わり、降り積もった雪も溶けだす頃という意味

啓蟄・・・大地が温まって、冬ごもりから目覚めた虫が、穴をひらいて顔を出す頃。「啓」はひらく、蟄じは土の中にとじこもっていた虫（蛙や蛇）という意味です

春分・・・昼夜の長さがほぼ同じになる日、この日を境に陽が延びていきます。春分の日は彼岸の中日で前後3日間を春彼岸といい、先祖のお墓参りをします。

清明・・・清明は「清浄明潔」の略で、万物がけがれなく清らかで生き生きしているという意味です

穀雨・・・春の柔らかな雨に農作物がうるおうという意味です。この時期に農作物の種をまくと、雨に恵まれ、よく成長するといわれています。

## 鐘撞き再開（令和3年4月15日）

修理のため長い間お休みを頂いていた長泉寺の梵鐘ですが、この4月2日夕方5時からまた再スタートさせていただきました。

今回の梵鐘のトラブルは鐘をつく撞木（しゅもく）、つまり鐘つき棒を鐘楼の天井から釣り下げるその天井の金具がボルトの断裂による破損がそもそもの原因でした。

ボルトの交換はすぐに終わったのですが、撞木が鐘に当たって音を出す撞座というところの微妙なアタリの調整がうまくゆかず、その調整に大変手こずっていたのです。調整が不十分ですと、撞木が撞座にうまく当たらず、鐘の音がよく響かないわけです。

職人さんがあれこれ試行錯誤している時、いつもお寺の前を犬の散歩をされている方が「鐘が何か不都合があるのですか？」と尋ねて下さいましたので、庫裡にお寄りいただき、いろいろお話しをさせて頂いていただきました。お尋ね下さった方は、偶然にも（株）丸一ゴム製作所の丸森工場の工場長を務められている秋久様でございました。

これまで撞木は鉄のリングで止めていたのですが、秋久様その間にゴムのパッキンを入れて鉄の輪と撞木の木材が密着しないとうまく撞けないのではとアドバイスを下さいました。アドバイスのみならず、秋久様は早速带状のゴムのベルトまで作って下さいました。今回それを鉄の輪と撞木の間に挟み、調整を重ねた結果、うまく鐘の音が出るようになったのです。言葉ではなんともうまく説明が付きませんが、秋久様のおかげで鐘の音をお届けできるようになり、本当に感謝に堪えません。

早速、4月3日から朝夕に撞かさせていたでいていのですが、ある方から朝6時ころ「道の駅角田」そばの中央公園を犬と散歩をしていたら長泉寺の梵鐘が遥かな空から良い音色で響いてきて、ああようやく長泉寺の鐘が復活したなあ大変嬉しく思った、というようなお話をお聞かせいただきました。こうしたお話しをうかがい、私は鐘がつけることになったことにほっとすると同時に嬉しい気持ちになりました。また多くの方々から「鐘の音が戻ってきて大変嬉しかった」「ほっとした」と言うようなこととお言葉をいた

だき、本当に皆様の応援があったからこそ鐘がこうやって撞けるようになったのだなと感謝をしております。(ちよっと報告が遅れました)。

長泉寺の境内の桜は殆ど散ってしまいました。これからは新緑の季節を迎えます。

季節の変わり目を感じながら朝夕撞く鐘のなるとも気持ちのいいこの時間を私は今楽しく嬉しく過ごさせていただいております。皆様方に澄んだ鐘の音が届けさせることができますよう、さらに精進したいと思っております。失礼をいたしました。

## 2回目の東京オリンピック (令和3年7月22日)

「鐘撞き再開」と題する小文を認めてから、少し間隔が開いてしまい申し訳ありません。気がついてみると今年も半分が終わり、季節は早七夕となりました。あらためて月日の経つのははやいものだなあと感じています。

言い訳になりますが、この間法務に追われていた

ことも事実なのですがなぜかいまひとつ文章を書く気力が湧いてきませんでした。つらつらその原因を考えてみると、やはり少なからずコロナ禍による心理的影響があるようです。

ところで、私事にわたって恐縮ですが、前回の東京オリンピック(昭和39年、1964年)が開催されたとき、私は小学校五年生でした。昭和39年と言えば、アジア・太平洋戦争の終戦(昭和20年、1945年)からちょうど20年目を迎えるようとするときで、子どもながらに「世紀の祭典」「戦後復興の象徴」と言われたオリンピック開催に感じた高揚感をいまにして忘れることができません。国道4号線を走る聖火ランナーに胸躍らせたことがまるで昨日のようです。

当時は日本全体がまだまだ貧しく、当長泉寺はもちろんのこと、カラーテレビはそれほど普及しておらず、オリンピックは白黒テレビで観戦しました。日本選手の活躍もさることながら、水泳のドン・ショランダー(アメリカ)、柔道のアントン・ヘーシンク(オランダ)、そして「東京オリンピックの名花」と言われた女子体操のベラ・チャフラフスカ(チェコスロバキア)などの選手

の美しい活躍の姿が強く印象に残っています。

あれから約60年近くの歳月が流れ、私も数年後には古稀を迎える年齢になりました。この間、物質的には確かに豊になった反面、少子化が進み、年々人口減少の度合いを進めるわが故郷、そして地球温暖化の影響かここ数年毎年のように襲ってくる豪雨、そうしたことを思うといろいろと所感が少なくありません。

今回のコロナ禍ももしかしたら人間社会に対する何かの警鐘なのかもしれないと、まったく盛り上がりには欠けていると感じる今回の二度目の東京オリンピックです。

ここに来てまた新型コロナウイルス感染者も増えてきたようです。このような状況の中でオリンピック開催を強行することに大きな疑問を感じますが、これ以上状況が悪くならないことを祈りつつ静かに見守りたいと思います。失礼しました。

※大雨による大規模な土石流で、甚大な災害にあわれた熱海市の皆様にご心よりお見舞い申しあげます。

もうすぐ秋の彼岸です（令和3年9月8日）

HPの「ひとりごと」の更新がだいぶ空いてしまいました。この間に2回目のオリンピックが開催され、パラリンピックも開催されて、さらに宮城県には二度目の緊急事態宣言が発出されるとともに、発出した本人も辞任すると言うことで新型コロナウイルスの感染症の収束は一向に兆しを見せていません。

新型コロナウイルス感染症については去年の初めから続いていてワクチンの接種が済んだ方も多くなってきた自分は大丈夫だろうと思う人も多くなってきたのか、始めの頃は一人の陽性者が出たことで大騒ぎをしていましたが、人間の慣れとは恐ろしいもので何人でも驚かなくなっています。TVで東京などの感染者数が何千人と報道されても特に感じることもなくなってきたようなようです。（多くの人はコロナに罹らないように3密を避け消毒もきちんとしています。100%になる事は無く、必ずそれらを守らない人が何%かいるのも事実です。TVの報道の仕方も有るかもしれませんが、わざと渋谷のスクランブル交差点を映

し出し人流の多さを強調しています。)

またどこの自治体とは言いませんが人流を押さえることが重要と言いなからそれを率先して破るリーダーが存在していることが感染症拡大に一役かっているのかもしれませんが。

さて、今年はずつとした天気の中でのお盆ですが、今月は秋のお彼岸がやって来ます。お盆とお彼岸の間隔は近く、どちらかを不要不急としてお墓参りをパスせんとする不届きな方もおられますが、両者の供養のあり方の違いは歴然としています。

お盆は帰ってくるご先祖様の霊を迎え入れる行事ですが、お彼岸はこちらから悟りの世界(すなわち彼岸)へ向かう仏道精進の行事です。ですから、お彼岸のお墓参りに来られた際にはお寺にもお気軽にお立ち寄りいただき、ぜひ日常のお話をお聞かせいただきましたと思います。

今週は肌寒い日が続いていますが天気予報ではまた暑い日が続きそうです。「暑さ寒さも彼岸まで」と言われていますが、新型コロナウイルス感染症及び熱中症にも十分気をつけてお過ごし下さい。

## 中秋の名月 (令和3年9月21日)

本日は九月二十一日。中秋の名月、お月見の日です。夕方四時より観月かんげつ調経てんぎんと言ってお月様へのお経をお誦えいたしました。

写真はその光景です。

(何故か祭壇のしつらえは住職の担当になっており、今年も家内の手伝いを貰いながら、何とか作ることが出来ました。)

他の僧侶やスタッフは住職後方の座敷に待機して手を合わせるといふ構図で、蚊が来たら大変と今年も網戸を閉められたまままでのお月見となりました。

五時頃となり。幼稚園の預かり保育の子ども達14〜5名が先生につれられてにぎやかに登場。きちんと坐って一人一人お月見のお話を園長(私です)から聞き、静かに手を合わせて背中を丸めるようにお参りする姿は涙が出るほどかわいらしいものでした。



お団子をいただいて、みんな笑顔で幼稚園に帰りました。

お寺の鐘もうれしそうに鳴りました。



## 石川昭光公と臥牛門

(令和3年12月30日)

今日は12月30日、令和3年もあと一日になりました。早いものです。今年も昨年に続き新型コロナウイルスに振り回された一年になりました。東京オリンピック・パラリンピックが開催され（ずいぶん遠くの事のように思えます）菅総理が退陣し総選挙があったりと様々なことがありました。長泉寺の多くの行事も影響を受けました。

さて本年は去る十月十一日、晴天に恵まれ角田市

文化財「臥牛門」復元完了報告諷経並角田開邑、長泉寺中興開基石川昭光公及び殉死七烈士四百回忌法要を無事開催することが出来ました。しかし、当日は感染症予防のため広く檀信徒の皆様をお招きすることが出来ず、住職として忸怩たるものがあります。

あらためてこの年末年始の機会に、ふるさと「角田」の歴史にふれていただけるとうれしく思います。

以下の文章は法要の日に於ける当寺総代長鈴木俊輔先生のご挨拶文です。ここに全文を紹介し

す。  
本日は角田市長・黒須貫様をはじめ佐山前教育長様、永井教育長様、碓子郷土資料館館長様、齋藤副館長様をお迎えし、また鷗工舎様、各御寺院様、そして長泉寺護持会常任役員の皆様方のご臨席を賜り、おかげさまでもちまして角田市文化財「臥牛門」復元完了報告諷経並角田開邑、長泉寺中興開基石川昭光公及び殉死七烈士四百回忌法要を厳粛に執り行うことが出来ました。皆様方には角田市文化財臥牛門の復元に対し、並々ならぬご法愛とお力添えを賜り、心より感謝申し上げます。

す。

抑々石川家は清和源氏の嫡流として五百二十七年の長期に亘り、福島県石川の地に禄高十八万石の繁栄を誇っておりましたが、不運にも小田原不参による奥州仕置を受け、天正十八年に石川領を没収されました。四十一歳の昭光公は一部の家臣とともに石川の地を逃れますが、『角田石川氏四百年』によれば、昭光公主従はその後各地を転々し、特に森合村での生活は困難を窮め、随従した長泉寺十世大然順碩和尚が托鉢をして辛うじて食料を調達したとあります。

その後、実の甥である伊達政宗公の庇護により一旦志田郡松山に入府、そして慶長三年十月、今から四百二十三年前に角田に入府されました。石川の地を離れて実に八年経過し昭光公は四十九歳でした。神仏を尊び先祖を敬うことの篤かった昭光公は角田入府と同時に、守護神であった石川の石都々古和気神社の分霊を奉じて八幡神社として移転し、大然順碩和尚は高源山長泉寺を石川の地から移転し角田高源山長泉寺を本山本寺とし、石川の旧長泉寺を末寺としました。また昭光公は石川の神社仏閣を修復造営し、専ら神仏の加護を冀い、領内の安全と領民の福利を常に祈念されました。

また『石川氏一千年史』によれば、この角田の地は見渡す限り不毛の湿地であり、阿武隈川は氾濫を繰り返していましたが、昭光公は終生情熱をもって治水に取り組まれ、さらにその御意志は代々受け継がれ、四代宗弘公の時代には水除土手並びに灌漑のための用水池を設け、現在の角田の農業そして角田の町の基礎を築かれました。

**正に昭光公は角田の開邑であります。**

また昭光公は政宗公とともに朝鮮征討、大坂冬の陣にも参戦し武功を挙げられ、角田石川氏は伊達宗家一門筆頭の家格をいただきました。そして昭光公は政宗公の良き相談役



でもあり、政宗公の書状の宛所は終始「石川殿」であり、また政宗公息女牟宇姫を三代宗敬公に嫁がせるなど、伊達家臣としては特別であり客将的な存在でありました。角田入府五年後嫡子義宗公二十七歳に家督を譲り村田に隠居されました。

二代義宗公ですが、いわゆる豊臣秀次事件では政宗公も豊臣秀吉に嫌疑を掛けられ、伊達が改易か転封かの重大な危機に直面した際に、若干十八歳の義宗公は伊達一門筆頭としてその潔白を起請文をもって申し開き、かつその筆頭保証人となって、この重大な局面を乗り切り、政宗公から二千石を加増されました。東北の歴史研究家であった高橋富雄東北大学名誉教授によれば、二代義宗公が健在であったなら伊達騒動はおそらくあのような大騒動にはならなかっただろうと言われるほどの名君でしたが、わずか三十四歳で逝去されました。

そこで六十歳の昭光公は七年ぶりに隠居先の村田から角田に戻り、わずか四歳の三代宗敬公を十一年に渡り補佐し、宗敬公十三歳での牟宇姫との結婚を見届けられ、宗敬公十五歳をもって三代館主とし、その翌年の元和八年七月十日、遂に病のため臥牛館にて逝去されました。

仙台人名大辞書によれば、その後家臣は昭光公の御遺骸を不眠不休でお守りし、葬儀の当日家へ帰り、家の者に自身の死後のことを命じ、自ら屋敷を掃除し、仏壇の前にて覚悟を告げ、時を待ち葬葬の列に加わり、葬列の山門到着を合図に長泉寺境内に

おいて殉じたと記載されております。そして時人傳えて美談となすと締めくくられておりますが、昭光公の御遺徳の一端を窺うことが出来ます。

角田市文化財の臥牛門ではありますが、三代宗敬公の隠居城の表門であり、徳川大阪城京橋口の筋鐘御門を真似て建設されたと言われ、その後角田城表門として明治まで存続しておりました。明治三十五年、臥牛館跡地に角田中学校が創設されることとなり、長泉寺二十九世鳥海是祥方丈の発願により大正四年三月に長泉寺に移設され、昭和四十三年十月に角田市文化財に指定されました。臥牛門の扁額は角田最後の邑主第十四代石川邦光公の書であり長泉寺の中門として長らく角田市並びに長泉寺のシンボリック的存在でありました。十数年前の本堂再建事業に伴い解体され、暫くその姿を見ることが出来ず復元を待ち望んでおりました。

この度の角田開邑並びに長泉寺中興開基として仰ぎ奉って参りました石川昭光公四百回忌に当たり、角田市、長泉寺、そして檀信徒一体となり、また寺院建築における第一人者であり、木造伝統建築の学術的奥義を極められた小川三夫様が主宰

される鷗工舎様の格別のご尽力をいただき、旧角田館唯一の遺構である角田市文化財臥牛門復原修理事業を行い、この日を迎えることが出来ました。

皆様方のお陰をもちましてこの様な報告諷経並びに法要を挙行出来ますことは、昭光公四百回忌の貴い節目に巡り合えました檀信徒として大変ありがたい、心から感謝申しあげます。

また、奥野成賢住職様には昭光公四百回忌に際し殉死七烈士も加えて頂き、その子孫を代表致しまして恐れ多い事と感謝申しあげます。

今後とも、奥野成賢住職様を中心に檀信徒一丸となって、菩提寺高源山長泉寺様をお守り護寺させて頂く所存でありますので、なにとぞ変わらぬご支援、ご協力のほどをお願い申しあげます。

本日まで臨席頂きました皆様方の益々のご健勝とご隆昌をお祈り申しあげまして檀信徒を代表致しましてお礼の言葉とさせていただきます。本日は誠に有り難うございました。

令和三年十月十一日

高源山長泉寺 檀信徒総代長 鈴木俊輔

ともあれ、のこりあと1日で2022年（令和4年）を迎えます。皆様にとりましてより良い年となりますよう心からお祈り申しあげます。今年1年大変ありがとうございました。来年もよろしくお願いいたします。



**寅年**（令和4年1月12日）

皆様お揃いで良い春を迎えることとお慶び申し上げます。本年もなにとぞよろしくお祈り申し上げます。

さて今年は今令和4年、西暦で2022年、以下のようなカウンターの仕方もありますね。

仏紀・・・2588年 釈尊ご誕生より今年で2588年。お生まれは紀元前566年。異説もあります。

日記・・・2682年 神武天皇即位の年（紀元前660年）を日紀（皇紀）元年とする。1872年（明治5年）、神武天皇即位の日（2月11日）を紀元の始まりとして祝日に制定。紀元節としたが戦後廃止。



1966年（昭和41年）に「建国記念の日」として復活した。

長泉寺開創・・・586年 即庵宗覚禅師を開山として、1436年（永享8年）現福島県石川町に創建。開基は磐城国三芦城主・石川持光公。

角田移転（寺籍移転）・・・424年 1590年（天正18年）、豊臣秀吉の奥州仕置により、ときの領主石川昭光公の角田移封にともない、1598年（慶長3年）角田へ寺籍移転。当時住職は10世大然順碩禅師

上記のようにいろいろありますが、寅年「壬寅

（みずのえとら）の年」であります。

干支とは、十干（じっかん）の干と十二支の支を組み合わせて干支です。

十干は、甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸です。十二支はみなさんご存じの「子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥」です。

この壬には、冬が厳しいほど春の芽吹きが生命力にあふれることを表すと言います。そう言えば今年の冬は寒さが厳しい気がします。昨春秋以降落ちつきを見せていた新型コロナも急速に拡大しています。感染症対策を確実にいき、心を引き締め気を引き締めて一年を過ごして行きたいと思えます。

ところで、寅で思い浮かべる諺や格言と言いますと、「虎穴に入らずんば虎子を得ず」「虎視眈眈」「前門の虎、後門の狼」「虎に翼」「虎の尾を踏む」「虎の威を借る狐」「虎の子」「虎は死して皮を残し、人は死して名を残す」「虎口を脱する」「虎を千里の野に放つ」「虎の巻」等数多くあります。その意味については各自ヒマつぶししながらお調べ下さい。

この中で今年一番注視している諺は「虎に翼」です。それは昨年、将棋四冠に輝いた若き王者藤井聡太棋士の本年の活躍が楽しみだからです。将棋界八大タイトルにあといくつ上乘せ出来るでしょうか、考えてみただけでワクワクします。それに比べ、わが愛する阪神タイガースは、昨年は春先こそ威勢が良かったものの結果的には尻すぼみの結果で終わり、毎度ながらの裏切りのトラでした。

令和4年のお正月も、今年こそは今年こそはの夢を抱かせる幕開けとなりました。

それはさておき、今年も初心にかえり基本を堅実に守る1年としたいと思います。倍旧のご指導とご法愛をよろしくお願い申し上げます。

皆様方のご多幸とご繁栄を心からお祈り申し上げます。

※虎に翼・・・強いトラにさらに翼を与えるということから、もともと実力のある者にさらに力がそなわることのたとえ。「鬼に金棒」と同義。

## よのなかごこち (令和4年2月11日)

昨年の秋、私の不注意で右足の膝を少し痛めてしまいました。そのうち治るだろうとたかをくくっておりましたが、お寺というのはご存知のように入り座ったりすることが多く、だんだんと痛みが増してまいりました。坐禅も結跏趺坐することがなかなか難しくなり、やがて半跏趺坐の坐禅をするということになりました。現在はますますひどくなり半跏趺坐もおぼつかなく、椅子坐禅で許しをいただいているという恥ずかしい有様です。

朝夕には鐘を撞きに鐘楼堂の階段を上り下りするわけですが、その上り下りも今はちよつと辛い感じですが、10年ほど前になります、ある知人に誘われ、膝の痛みは岩手の夏油温泉に行くと言ったので、2泊3日その誘いにのり夏油温泉に上ったことがあります。50度から60度ぐらいの熱湯の露天風呂お湯に浸かってヒーヒー言い、一分も浸かる事が出来なかったと思いますが、ソロソロと身を沈めてはとび出すようにあがったりを繰り返しました。すると、なるほど夏油温泉を

体験して1ヶ月ぐらい経ったら痛みがすっと消えたのです。ちかごろはそれを思い出し、早く夏油温泉が開湯する春が来ないかなと待っているわけですが、あいにく今はテレビで毎日北京オリンピック。それを観戦する状態。あたかも自分がオリンピックに出場した選手であるかのようにジャンプを見てはジャンプし、スケートを見てはもっと早くと、ついつい下半身に力が入り、痛みもそれと同時に増してくる情けない状況です。

膝は痛いし、感染症もおそろしい。時節柄だんだんと出不精になり、暇が出来るようになりました。暇があれば人間は何か暇つぶしをしたくなると思うのが常で、食事をするテーブルのところに国語辞書を置いて（今は三省堂の大辞林）いるものですから、その大辞林をパラパラとめくっておりましたところ、あれっと思ふ言葉にぶつかりました。「よのなかごち」という言葉です。『世の中心地』、意味は多くの人に伝染する病気。流行病。疫病。えやみ（疫病み）とあります。

日記・・・2682年 神武天皇即位の年（紀元前660年）を日紀（皇紀）元年とする。1872年（明治5年）、現在私たちが四苦八苦しております新

型コロナウイルス、特にオミクロン株そのままだな、こういう言葉があったのだなと驚いております。心地というのは気持ちと言ふ意味だろうとしか私は思っておりませんでしたから、病気という意味もあるのだと初めて知りました。世の中心地が今は、はなはだ悪い。環境衛生に万全を尽くし、何事もないかのようににこやかに園児と遊ぶミネ幼稚園の先生たちですが、内心はみな毎日が綱渡りです。早く収まって普通の世の中になつて欲しいと思つている次第です。私は何とも役に立たない園長です。まとまりのつかないお話をさせていただきます。

### 復興にむけて （令和4年5月20日）

2月11日に「よのなかごち」という一文を掲載させていたから、はや3ヶ月が過ぎています。掲載の更新が遅れることはこれまでもたびたびありましたが、今回は以前とは違った意味でなかなか筆が進みませんでした。それは3

月16日深夜に発生した震度6強という大地震の影響によるところが大きいと言つのが偽らざるところです。

体感としては十一年前のあの東日本大震災よりも強い揺れであったように思われ、いまもおその恐怖心を忘れることができません。当長泉寺の甚大な被害状況の一端はホームページでも皆様にご報告しております。

ご承知のように昨秋には懸案の臥牛門の復元工事が完了し、大地震のあった3月16日の日中には臥牛門脇の六地藏尊移設のための読経を済ませたところでした。東日本大震災(2011)、2019年10月の台風19号、そして今度の大地震とどうしてこう立て続けに災害に見舞われなければならないのだろうかと恨めしく思っています。圧倒的な自然の力の前には為すすべもありません。

曹洞宗の僧侶であった、かの有名な良寛(1768-1831)は三條大地震(1828年11月12日)の際、知人に送った手紙で、

「地震は信に大変に候。野僧草庵は何事もなく、親るい中、死人もなく、めで度存候。うちつけにしなければならずながらへてかゝるうきめを見るがはび

しさ。しかし災難に逢、時節には災難に逢がよく候。死ぬ時節には死ぬがよく候。是はこれ災難をのがるゝ妙法にて候。かしこ」。要約すると。

災害に遭う時節には災害に逢うがよく候

死ぬ時節には死ぬがよく候

是はこれ災難をのがるる妙法にて候師

と述べたとされますが、凡僧である私などは容易にそうした達観した心情にはなれません。

翻って、世界に眼を転じてみるとロシアの侵略によるウクライナの惨状は眼を覆うばかりです。何の罪もない幼児や女性が逃げ惑う姿や粉々に破壊された家屋の瓦礫の山を見るといたたまれない気持ちと怒りをどうすることも出来ません。

甚大な地震被害で、さてどうしようと悲嘆にくれた私でしたが、気を取り直して少しずつまた前進して行こうと決意をあらたにしているところです。

## 6月14日に思う (令和4年6月10日)

6月14日は師であり父である長泉寺41世天閑泰弘大和尚の生まれた日です。父は大正11年(1922年)の生まれですから、存命であれば満100歳となります。ちなみに父が亡くなったのは20年前の平成14年(2022年)のことでした。

百年という年月をどうとらえるかは人それぞれだと思いますが、一つの区切りではあると思います。

そう思っ、あらためて手許にある歴史年表を見てみたところ、父の生まれた1922年の3年前の1919にはパリ講和会議(ベルサイユ条約)によつて第一次世界大戦が終結し、父が生まれた翌年の1923年(大正12年)9月1日には首都圏に壊滅的な打撃を与えた関東大震災が起こっています。

死者数1憶人以上とも言われている1918年から1920年にかけてのインフルエンザ・パンデミック、いわゆるスペイン風邪の世界的大流行は第一次世界大戦に従軍した兵士によつてもたらせられたとされていますし、今般の新型コロナウイルス感染症の世界的流行の始まりが2020年初頭からであり、そして今般のロシアによるウクライナへの軍事

的侵攻がこの2月末からであることを思うと、不思議な感覚にとらわれるのは私だけでしょうか。加えてこの3月16日深夜に当地を襲った大地震、十一年前の2011年(平成23年)3月11日に発生した東日本大震災、それに関東大震災との周期的問題なども気になります。

まとまりのない文章になってしまいましたが、父が生きていれば百歳になるということは私も相應に歳を重ねたということになります。あらためて『修証義』第五章「行持報恩」の一節をかみしめながら日々精進を重ねてまいりたいと思つています。

『修証義』第五章「行持報恩」の一節(原文)

※徒に百歳生けらんは恨むべき日月なり、悲むべき形骸なり、設い百歳の日月は声色の奴婢と馳走すとも、其中一日の行持を行取せば一生の百歳を行取するのみに非ず、百歳の托生をもすべきなり、此一日の身命は尊ぶべき身命なり、尊ぶべき形骸なり

《かりに百歳まで生きたところで、充実感もなく、ただ生きたというのでは悔いの残る人生でしょう。悲しい形骸に等しい生命です。たとえ

百年の間、感覚的に楽しい思いをしたところで、意義ある人生とは言えません、しかし、その中の一日でもよいから、仏法に従った生活を行じてごらん下さい。それだけで百歳の一生を行じつくしたことになる、さらに、別の百歳の人生をもう一度充実して送ったことにも匹敵するのです。ですから、今日という日の私のこのいのちは、その上にこそ仏法を躡す尊い身体であり、生命なのです。》（奈良康明『修証義私釈』新塔社、1990年より）

## 億劫（令和4年10月28日）

父であり師である先代のことをHPに記した「6月14日に思う」を掲載してから早や四ヶ月が過ぎてしまいました。

言い訳をするようで恐縮なのですが、わが国も多死社会を迎え、このところ長泉寺もご葬儀が続ぎ、夜になるとプシューと風船がしぼむように早めに休むことが多くなりました。ご葬儀のお勤めとくに引導法語はとも神経を使うものなので皆様方の想像以上に疲労をと

もなうものです。加えて今春3月の大地震による心理的ダメージも知らず知らずのうちに蓄積されているのかも知れません。まあ一言でいうと、記すのが「億劫おおくう」になっていた次第です。なにとぞご勘弁下さい。

さて、「億劫おおくう」は『妙法蓮華經みょうぼうれんげきぎょう』の「序品」にあつて、仏さまに会うことはきわめてむずかしいことを述べた「諸仏にはだいし、億劫に時に一たびうらん」（多くの仏たちにあうことはきわめてむずかしい。一億の劫という年月の間においても、たった一度会うことができるがどうかであろう）に由来します。

「劫」とはきわめて永い数え切れない時間を意味し、具体的な定義もあるのですが、それをここで解説するのは野暮というもの、きわめて長い無限の時間とご理解いただければよいかと思えます。

ついつい怠け心から、億劫になって、物事を先延ばし先延ばしにしてしまう昨今の私ですが、出来るだけ諸事先延ばしにしないよう頑張ってみようと思つてるところです。とはいえ、これから寒さに向かうとまた億劫になるなあ、怠け者の

私の格闘はまだまだ続きます。ご容赦のほど、よろしくお願い致します。

### 《追記》

「永劫」<sup>えいけつ</sup> Ⅱ 「非常に長い年月」 (三省堂 『新明解国語辞典』) も「劫」を考えるうえで参考にされるかと思えます。

※長嶋茂雄選手、引退試合後の挨拶です。「読売巨人軍は永遠に不滅です」と言うべきところ、「永久に不滅です」と、とちってしまいました。永遠? O、永久? に残る迷言となりました。言葉使いは面倒です。

あけましておめでとうございます (令和5年1月1日)

本画家の及川聡子先生に干支の福うさぎを描いていただきました。(32.5cm×24cm) 近寄って見ると、うさぎ特有のもふもふとした



新年あけまして  
おめでとうございます

今年(今年)は兔年(うさぎ)です。文部科学省(文化庁)の唱歌(うた)に「ふるさと」という唄(うた)があります。この歌詞(歌詞)に「うさぎ、おいしい、かの山」と覚えて(覚えている)人に時々(時々)あいます。これが「うさぎ、追(お)いし、かの山」が本当(本当)です。

令和5年 元旦 長泉寺(長泉寺)住職(住職) 奥野成賢(奥野 成賢) 合掌(合掌)

温もりと早足の鼓動が聞こえてきそつです。

※及川聡子先生は1970年生まれ。

1993年 東京造形大学造形学部卒業。

1995年 東京学芸大学大学院修了。

2003年 文化庁新進芸術家国内研修員。

現在、仙台市在住です。

## 鐘撞き堂 (令和5年3月1日)

昨年末の「峰のたより」でも紹介させて頂いた「鐘撞き堂」が今月中旬に完成する予定です。既にご存じとは思いますが、山門をくぐりすぐ右手にあります。

現在、工事は仕上げの段階にあり、中旬には「ミネ幼稚園」のお友だちによって鐘の撞きぞめを行う予定です。

※鐘ものがたりの表紙画像をクリックするとPDFファイルを読み込み閲覧が可能です。



## お盆の季節 (令和5年7月18日)

今年もお盆の季節が近づいてきました。

毎年というか最近では「今までに無い暑さ」が繰り返されているような気がします。また、今の時期は農作物に影響を与える「やませ」が吹くものですが、今年はほとんどないような気がします。

これも毎年お話ししていることですが、「お盆」は年に一度、亡くなられた先祖様の霊をお迎えし、魂を供養する期間のことです。ですから参拝のお客様で、お寺も1年の中で賑やかな季節となります。また、今夏は「鐘撞き堂」も落慶しております。この梵鐘については先住職の奥野泰弘方丈が記して檀信徒の皆様へ配布させて頂いていただきました「鐘ものがたり」に詳しく書いてあります。(HPに復刻版を掲載しています。是非、ご覧下さい。)

どうぞ皆様も山門をお気軽にくぐっていただき、鐘を撞き、ご本堂にお参りしていただきまして、一時先祖様を偲んでいただきたいと思います。

当長泉寺では下記のように「施食会」「新盆供養」「永代供養された方々へのお盆供養」を行う予定にしております

①新盆供養・・・8月5日(土) 午後3時から

令和4年6月26日～令和5年6月25日にご逝去の方が対象となります

②施食会法要・・・8月6日(日)～8月9日

(水) 毎晩7時から

③永代供養者お盆供養・・・8月11日(金) 山の日、午前11時から

永平之塔」「ののさま涅槃会」合同の供養会です。

ところで私たちを悩ませてきた新型コロナウイルス感染症が今年5月8日以降感染症分類が2類から5類へと変更になりました。これにより日常生活に対する制限はなくなりましたが、ウイルスが消滅したわけではありません。どうぞマスクを着用の上、お越しくくださるようにお待ちをしております。暑さに気をつけて、お墓の掃除をしっかりと行いお盆を迎えてほしいと思います。

※やませ(山背)とは、北日本の(主に東北地方)太平洋側に吹く北東の冷たい湿った風(オ

ホーツク高気圧から流れ込む冷たい海霧や下層雲を伴った北東気流)のことです。この風が続くと水稻を中心に農産物の生育と経済活動に大きな影響を与えます。太平洋側沿岸地域では最高気温が20℃程度を越えない日が続き、別名、「冷害風」「飢餓風」とも呼ばれます。

## 読書の秋

(令和5年10月18日)

今年の夏はことのほか厳しい暑さでした。国連のグテーレス事務総長が「地球温暖化」の時代は終わり、人類は「地球沸騰化」を迎えていると警告を発したことは周知のことかと思えます。

つい1ヶ月ほど前まで異例の残暑が続いていましたが、ここに来てぐっと冷え込み、今日などはむしろ寒いほどです。深まりゆく秋とともに、日ごとに早まる日没に毎年のことですが何かもの寂しさを感じます。

秋といえば、「食欲の秋」「読書の秋」です。これと言った趣味とてない私ですが、読書

が好きでさまざまな本を購入してきました。最近はどういうように時間がとれず、恥ずかしながらいわゆる「積ん読」状態ですが。

いつかは小さな図書室のようなものをつくって、地域のみなさんに貢献したいという夢を持っています。実際、お檀家のみなさまから貴重な書籍をご寄贈いただいておりますが、2011年3月11日の東日本大震災と昨年(2022年)3月16日の大地震により、当寺は甚大な被害を受け、私の淡い夢はその糸口さえ見えない状態です。

家族の者よりはダンボールに入った書籍を少し整理して、整頓された長泉寺、美しい長泉寺にしてくれるよう苦言を呈される有様で、「汚部屋」ならぬ「汚寺」にならぬよう気を引き締めている昨今です。

(追記)

手に取ってみると、どの本にも愛着があり、本の「断捨離」は難しいものです。つい「いつかは」と思ってしまうのです。しかし、それが「執着」というものなのでしょう。いけないと思いつつ、凡人である私にはなかなか難しいことです。

学徒出陣80年

(令和5年11月21日)

明治神宮外苑競技場(現在の新国立競技場)

でいわゆる出陣学徒壮行会が行われたのは、昭和18年(1943年)10月21日のことでした。今年はそのから80年目の節目にあたります。

そうした影響もあるのか、今秋は出陣学徒行進のテレビ放映が多かったように思います。出陣学徒壮行会は全国各地で行われたのですが、「学徒出陣」というと関東一円の東京、神奈川、千葉、埼玉の大学・師範学校・専門学校・高等学校等の学徒を見送った明治神宮外苑競技場のそれが有名になります。

ちなみに東北地区の学徒出陣壮行式は、11月18日に当時の宮城野原練兵場で東北帝大、旧制第二高等学校、山形高等学校、弘前高等学校等の学徒が参加して行われたようです。

当時、駒澤大学在学中だった師父も雨の中、銃剣を担って神宮外苑競技場を行進し、同年12月には横須賀第二海兵団(のちの武山海兵団)に入団し、軍隊生活を送ることになったのでした。師父らがどんな思いで戦陣に赴いたのか、

いまとなっては知る術とてありませんが、ちょっと考えてみても背筋が寒くなります。

翻って、昨年2月にロシアの侵略によって始まったウクライナとの戦争は激しさを増すばかりで停戦の兆しはまったく見えないありさまです。さらに近時のハマスとイスラエルとの暴力と武力による応酬は、憎悪と報復をエスカレートさせ、とどまることはありません。

地球上の人類はいつになったら無益な争いから解放されるのでしょうか。師父の学徒出陣と重ね合わせながら、ぼんやりと思ったことでした。

### 子ども食堂に思う (令和5年12月29日)

「託児所や 親は安心 子は無心」

この句は現在のミネ幼稚園の淵源となる長泉寺農繁託児所を開設したときに、私の祖父（長泉寺四十世中興乾外説宗大和尚奥野説宗）が詠んだものです。祖父は幼い子どもがいる親は、特に家

族総出で農作業に従事しなければならぬ農繁期には安心して仕事に従事できないだろうと考へ、お檀家の皆さん（特に観音講礼讚会会員の皆さま）のご協力を得て田植えと稲刈りの時期に長泉寺農繁託児所を開いたのでした。その活動に対して、昭和8年（1933年）には朝日新聞社社会事業団より表彰も受けています。

さて、開設5年目を迎えた長泉寺子ども食堂も皆さまのご支援もあつて、多くの方々によるこんでいただいております。笑顔でカレーを頬ばっているお子さんを見ることほどうれしいことはありません。

翻って、いま世界の情勢を見渡してみると、何の罪もない多くの子どもがその尊い命を失っています。連日報道される戦地からの映像は、衰弱しきった子どもの様子を映し出しています。これから本格的な寒さを迎えますが、この冬あの子たちはどうなるのだろうと胸が締め付けられる思いです。早く安心して暖かい食事ができることを願わずにはいられません。

新年を迎えるにあたり、私たちの活動がこれからも多くの子どもたちの笑顔と幸せに貢献で

きるように、そして世界中の子どもたちが安心して過ごせる環境が一日も早く訪れることを心から願っております。

(追記)

冒頭に記した私の祖父は、「成賢」という私の名前を命名した約1ヶ月後の1954年(昭和29年)4月29日に世寿67歳で遷化しました。私は同年3月24日の生まれですから、早くも来年古稀を迎えることになります。健康に留意して、気を引き締めて精進していこうと心あらたにしているところです。来たる年も皆さまどうぞよろしくお願ひいたします。

日日是好日 (令和6年2月14日)

日日是好日」という言葉は、私たちにとって身近な言葉だと存じます。しかし、その読み方について、どうでしょうか？

ネットなどで調べると「にちにちこれこうじ

つ」「ひびこれこうじつ」「ひびこれこうじち」「ひびこれよきひ」等々あり、現在ではすべて正しい表現となっているようです。この言葉が禅の教えに根ざしていることを考慮すると、「にちにちこれこうじち」がどうも正しい読み方といえそうです。

テレビやインターネット、SNSなどのメディアの影響で、読み方に一定の自由度が生まれてきたのでしょうか。

ところで、この言葉は、唐の禅僧・雲門文偃うんもんぶんえんの『雲門広録』を出典としますが、一般には「碧巖録へきがんろく」という語録によって知られています。

(語録)

「雲門垂語して云く、『十五日已前は汝に問はず、十五日已後、一句を道いい將もち来たれ』。自ら代って云く、『日日是好日』」。

「ある時、雲門文偃は弟子たちに問いかけました。過去の15日については尋ねない。これからの15日をどのように過ごすか、一言で述べよ。弟子たちが答えられないのを見て、自ら「日日是好日」と言いました。」

この逸話では、「毎日が良い日である」とい

う教えが示されています。ここでの「良い日」とは、単に運が良いという意味ではなく、過去をむやみに悔い、未来に必要以上の期待を持ち込まず、現在いまを精一杯生きること努める大切さを説いたものです。どの日も価値があり、生きるに値する素晴らしい日であるという深い意味が込められています。）

「日日是好日」は、どんな日も、私たちが仏様と繋がっている尊い日であると教えていると思います。

私もこの教えを胸に留め、一日一日を大切に、心を込めて生きていくことが必要だとあらためて考えさせられました。これからもこの一節をかみしめながら日々精進を重ねてまいりたいと思っています。